

「研究テーマ」

「新聞を身近に感じ、新聞に親しみ、生活や学習に生かそう」

南あわじ市立阿万小学校 教諭 山岡 正和

1、はじめに

本校は南あわじ市の南部に位置し、東に論鶴羽山の裾野から緑豊かな田園風景の広がる校区を有する。子どもたちは農村部特有の気質を持ち、素直で素朴である。外遊びも好み休み時間には、校庭に子どもたちがあふれるほどである。校庭にそびえる樹齢100余の楠木2本が本校のシンボルでもある。

しかし、都会の子どもたちに負けず劣らずゲーム機、テレビっ子も多く、ほとんどの情報はテレビから得ている現状がある。従ってアウトプットとしての表現力に課題が見られることも否めない。このような子どもたちに新聞を身近に感じ、表現力を高めるとともに生活や学習に生かしたいという思いから、NIEへの取り組みをスタートさせた。

【1年生の取り組み】

新聞に興味を持ち、見てみよう、読んでみたいなどという関心・意欲を高めるために次のようなことを実践した。

1、新聞に興味を持つために、新聞記事の紹介をした。

(例1) 防災学習にあわせて、ひょうご新聞感想文コンクールより、「こどもぼうさいアカデミー」(1年生)を読み聞かせ

(例2) 子供向け「学び」より、なわとびに関する記事などを紹介

2、カタカナをすべて学習し終わった後に、



タライケア	イロオバオカ
リンオス	ブリート
アズリトヨ	コンゲケク
ンライ	モン スナ
カイ ロ	ンドビビトの
エタドカ	ゴラオアラ
アソイパ	ルバラノと
アツグ	ス ドは
ヒツフバ	アチバレ
	ジタエイ

子ども新聞のひとつの記事の中からカタカナの言葉を見つけ、ノートに書き出した。

楽器の名前、国の名前などドンドン見つけ書き出して

いた。知っている言葉が出てくると、「これ知ってる。」「この国どこにあるの。」とか言いながら、興味を持って取り組んでいた。

3、新聞に掲載されている興味を持った写真などを切り抜き、ノートに貼っていく。

「おもしろいな、きれいだな」など自分がいいなど思う記事や写真をスクラッ



プしてみることを紹介すると、何人かの児童がやってみた。季節の写真や大きな事件など自分の興味のあることを見つけてスクラップしていた。

(実践を終えて)

単発的な取り組みであったが、新聞に少し興味を持ったようだ。学校内にある児童新聞を手にとって、見たり読んだりする児童も少

しずつではあるが、増えてきたように思う。興味が続くように継続的にしていくことが課題である。

【2年生の取組】

下駄箱付近に置いてあった子ども新聞は、通りがかりに手に取ってみる児童が多くいた。興味関心は4コマ漫画やイラスト、写真が中心であったので、活字にも目を向けることを目的に取り組みを行った。

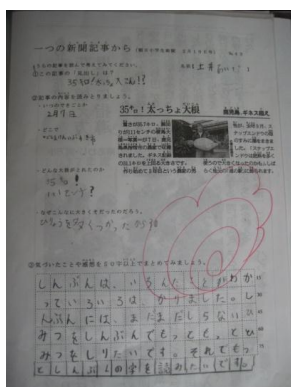
○「の」の字探し

新聞記事の中から「の」の字を探し、○を付けていった。

制限時間を1分としたので、大変集中して取り組むことができた。

○一つの新聞記事から

興味をひく写真と短い記事から「見出し」「いつ」「どこで」から始まり、「どんな」「なぜ」まで読み取っていく。感想には「また読



んでみたい。」の声もたくさんあった。

○まとめ

子ども新聞には漢字にふりがながあるので、低学年の児童にも読みやすい。活字を読むことで記事

の内容が理解でき楽しむことができた。これからも継続した指導をしていきたい。

【3年生の取り組み】

○新聞づくり

〈社会科〉 スーパーマーケットへ見学に行

き、子ども一人ひとりが発見した工夫をグループごとに1枚の大きな模造紙にまとめた。4人1班で取り組み、1人1記事を書くことにした。記事には、見出しや見つけた工夫、感想を入れるようにした。

〈総合的な学習の時間〉 環境体験学習で吹上浜に行き、学習したことを新聞にまとめた。2学期は『海岸に自生している貴重な植物』について、講師先生から学んだことや、体験したことをまとめた。3学期は『海岸の環境やゴミ問題』について、ゴミの量や種類の多さなどから驚き、考えたことをまとめた。どちらも題字や見出しを工夫して1人ずつ新聞にまとめた。事実の他に、自分の考えなども入れるようにした。中には、読んでくれる人に環境保護を呼びかけるような内容にした児童もいた。

○新聞プリント

テストの時間などに、校長先生に作っていただいた新聞プリントに取り組んだ。「いつ」「どこで」「何が」など5W1Hの要素を内容から読み取ったことや新聞記事を読んで気づいたこと、感想を書くようにした。

○まとめ

新聞のプリントを通して、どのように新聞づくりを進めていけばよいかに気づいた子どもが多かった。新聞プリントや新聞づくりをしていくことで、作文などにおいても何を書けばよいのか迷わなくなったという感想が子どもたちの中から出てきた。今後は、自分で読みたい記事を選択して活用するなど、子どもたちの興味関心に合わせながら進めていくことも考えたい。

【4年生の取り組み】

○新聞を作ろう I (1学期)

国語科「新聞を作ろう」の単元で、新聞の

特徴や新聞の作り方について学習しました。そして、社会見学で学んだことについて、一人ひとり新聞を書きました。

○新聞記者の方をゲストティーチャーに招いて2学期神戸新聞社の記者である長尾亮太さんをゲストティーチャーとしてお招きし、いろいろなことを教えていただきました。一人一紙配布していただき、紙面のことや、新聞の見方、記事の書き方、見出しの工夫など幅広く教えていただき、新聞に親しむことができました。その後、進んで新聞をめくり、来ていただいた記者さんの記事を探すようになりました。また、自主的に新聞係を作り、クラス新聞を発行しました。担当記事に名前を入れることで、新聞を作り上げた喜びももてたようです。児童にとって、プロの話は、強く心に響き、学習の効果は大きかったと思います。



○新聞を作ろうⅡ（2学期）

社会見学に行ったことをもとに、個人新聞を書きました。また、グループで壁新聞作りにも挑戦しました。1学期、夏休み新聞に続き5枚目の新聞となり、新聞記者の方に教えていただいたことを生かして、トップ記事の選び方や題字、見出しなど、楽しそうに工夫する姿が見られました。最も伝えたいことを児童それぞれが考え、5W1Hを意識して新聞作りをすることができました。

○記事をさがそう（3学期）

国語科「ウナギのなぞを追って」の単元を学習している際、科学的な読み物を並行して読書しました。「新聞にもものってたよ。」という児童の発言をきっかけに、みんなで新聞か



ら科学的な記事を探してスクラップすることにしました。

全員で新聞を広げると「あった!」「これ見て!」といきいきと新聞記事を読み、話題が広がり、学習も深まりました。切り抜き記事がたくさんたまったので、「これは」と思った記事をスクラップブックにして、蓄積し、図書室において活用できればと考えました。

《実践を終えて》

新聞記者さんから教わることで、新聞への関心が高まり理解が深まりました。この一年は、新聞に慣れ親しむことが目標でしたが、新聞を活用することで、社会へ目を向けられたり、興味が広がったりすることを実感しました。新聞活用を通して、子どもたちの好奇心の芽を大切に伸ばしながら、児童の思考力、判断力、表現力を育成していきたいと思います。

【5年生の取組】

5年生では朝の学習タイムを使って、新聞記事を利用したスピーチをおこないました。

〔1学期〕

関心を持った新聞記事を自分なりにまとめ、みんなの前で話す「一分間スピーチ」をおこないました。当初は、記事をそのまま説

明する子どもやスピーチ内容を理解できない子どももいましたが、徐々にスピーチに対する質問も増えてきました。

〔2学期〕

学校にある朝日新聞の「天声人語」の音読と要約を目標に「三分間スピーチ」をおこないました。「天声人語」は大人でも難しい内容ですが、わからない言葉は辞書で調べ、家庭で協力してもらいながら、子どもたちはスピーチ内容を考えました。今まで知らなかった熟語や言葉の使い方を少しずつ学習できましたし、新聞やニュースへの関心が高まったように思います。

〔3学期〕

自分の家の新聞の一面コラムについて、2学期にと同じような形で「三分間スピーチ」をおこないました。2学期からの流れで、スピーチ内容もよくなり、スピーチに対する意見や質問も多くなりました。時には、一つのスピーチの話題から、討論に発展する場面もありました。

〔おわりに〕

新聞記事を利用したスピーチをおこなったことにより、多くの言葉に触れ、「書き言葉」と「話し言葉」の意味や違いが理解できました。また、自分の考えを相手にわかってもらうためには、どのように話せばよいのかを考えるきっかけになったと思います。今後も新聞への興味が高まることを期待しています。

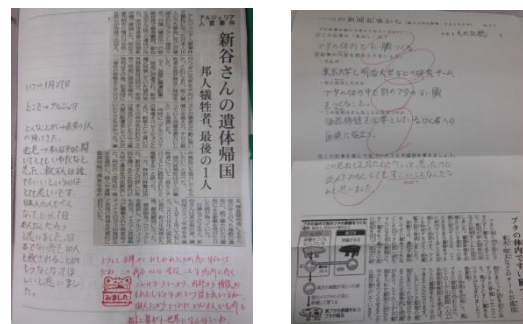
【6年生の取組】

- 新聞を使ったプレゼンテーション
 - ・自分の気になった事象に関する記事を集め、1つの壁新聞を作りました。子どもたちは自分の記事の内容を要約して伝えたり、記事の内容について自分の感じたことを意見として友だちに伝えました。

例：夏季オリンピックについて



- 毎日レポート
 - ・毎日の新聞から自分が気になった記事を集め、ノートに貼り付けていきました。最初のうちは、貼り付けるだけ。貼り付けることが定着してきたら、その記事の「見出し」「いつ」「どこで」「だれが」「どんなことを」などを書き込み、最終的に自分がその記事を読んで感じたことを書き込むようにしていきました。



【終わりに】

今年度、できるだけ子どもたちが新聞にふれることができるよう、新聞コーナーを各所に設け、子どもたちの足を止め、手にとって見ることができるよう環境づくりに努めた。また、子どもたちに身近で興味をひきそうな記事を掲示し、関心を高めることができるよう工夫した。委員会の活動では、図書委員が毎日昼休みに新聞記事の紹介をし、「みなさん興味のある人は見てくださいね。」と呼びかける活動を続けた。今後子どもたちの表現力、言葉の力を高める活用につなげていきたい。